



羅針盤

令和4年7月1日発行
宇都宮市立清原中学校 進路指導部

苦手教科克服法

●夏休みはビッグチャンス！

さあ、いよいよ夏休み。「夏休みが勝負」などという言葉があちこちで聞かれます。「夏休みを計画的に過ごせば、夏休み以降に大きく伸びる」よくそう言われます。

「じゃあ、どうすれば勉強ができるようになるの？まず、何をすればいいの？」という質問が聞こえてきます。そこで、その質問に答えるために、この号では、苦手教科を克服した先生の体験談を紹介します。



●どうして苦手な教科が得意になったか？

大嫌いの理科を克服したA先生。理科がさっぱりわからない。それが3か月ほどで、学年でもトップクラスに大躍進してしまったそうです。以下はその先生の言葉です。

理科ができるようになったのはね、一言でいうと、「一冊の問題集にかけて、その問題集を何回もやって答えを覚えちゃう」の。分かんない問題は答えを見ながらやっていく。教科書なんか読んで勉強したってダメ。理屈が分かっててもダメ。とにかく問題が解けないとダメ。それには、もう問題集しかないの。

理科のテストって、出る問題ってはっきりパターンがあるの。同じような問題が繰り返し出るから、とにかく一冊の問題集にかけて問題を何回も解いていく。それだけで、自分でもビックリするほど解けるようになったわよ。1学期は全然分からなかったのに、2学期になったら何とトップ。みんなに解き方を聞かれるようになったわ。

なかなか劇的な変化ですね。

●こういう問題集がいい！

さて、「問題集で勉強する」と言っても、どういう問題集をどういうふうにやればいいのでしょうか。「夏休み中に一冊やり終える」には「薄い問題集」がいいです。薄ければ最後までやれる可能性が高いし、薄い問題集は「これだけはマスターしておかないといけない」という大事な問題中心にまとめられているからです。厚い問題集は「応用問題・難問」まで載っているの、「この教科は得意。でも、さらに力をアップさせたい」という人が取り組むといいでしょう。

「薄い」の基準は60～70ページ程度のものいいでしょう。それだと、1日見開き2ページやっていくというペースで休み中に終わることができます。解答や解説が詳しく書いてあるものなら最高でしょう。

問題集をやっていくときに、分からない問題もいっぱいあると思います。そのときは解答を見ながら進んでください。そして、できなかったところには印をつけておいて、次にやるときは、印のついたところを重点的にやる。問題集で勉強して覚えていくわけですから、最初でできなくても、「できないところ・覚えなくてはいけないところ」が分かることが大事です。「分からなければ、答えを見ながらやる」と思えば、誰だって取り組みそうに思いませんか。



●「調整日」，「たのしみごと」も計画しましょう。

「問題集を一冊終わらせる」といっても，なかなか実行できません。それより，「1日2ページやる」とはっきり決めてやるのがいいようです。「次の日は休もう」と思ったら，二日分を前の日にこなしてしまう。溜めないようにしましょう。

また，一週間に一日は「調整日」といった「予定どおりに進まなかったところをやる日」というのがあるといいでしょう。予定どおりに進んだ時は休みにできます。

長い夏休み，「勉強ばかりで楽しみもない」というのでは途中でダウンしてしまいます。家族と旅行する。映画を見る。友達とプールに行く。夏休みの間に何回か「楽しみごと」を入れておくと，勉強にもいいリズムができてきます。「好きなことを思いっきりやるために，決められた分量を早めに終わらせる」という取り組みの仕方がずっと能率的なようです。



7/21

	プ ー ル		旅 行		模 試		映 画	
--	-------------	--	--------	--	--------	--	--------	--

8/25

●受験勉強って，暗いもの？

「受験勉強は暗いもの。大変なもの。我慢してやるもの」というイメージがあるかもしれませんが，ほんとうでしょうか。「受験勉強は目標がはっきりしているから張りあいがあった」とか「問題ができるようになった。テストの点数が上がったりするのがうれしくて，積極的にやれた」という人もいます。「やった分だけできるようになるので，面白い」と感じられるようになったら「シメタ」ですね。

今回，紹介したことが，少しでも皆さんの意欲につながってくれることを願っています。大事なのは「いまから，ここからスタート！」することです。夏休みと言わず，今日から始めてみませんか？

『たのしい進路指導』中 一夫 仮説社より

